

○ 第7回「ハートミーティング」 意見交換の内容について

---

市長 若手職員が、自分の業務を越えて集まってきていることをうれしく思う。

メンバー 本日参加しているのは、区役所内での公募で集まった若手の職員達である。東山区では11ある学区ごとに住民円卓会議を開催しているが、このメンバーは、一人一学区の円卓会議を担当しながら、住民の生の声を聞いている。円卓会議では住民の声を詳しく聞くことができるので、それを今後10年間の東山区基本計画の策定に生かしたい。

その他、小・中学生を対象に、どんなまちづくりを望むのか、若い世代の声を吸い上げるためのワークショップ等の取組を検討しているところでもある。

まず、チームメンバーの東山区に対する印象を話したい。

メンバー 修学旅行生等が多く、観光のまちという印象がある。修学旅行生が道に迷っている様子を見ると、こちらから声をかけたりしている。

また、業務で選挙に携わっており、選挙人名簿の調整をしているが、毎月のように登録者数が減ってきていることを寂しく思っている。子育て世代にとって、魅力的なまちにすることが大事だと思う。

メンバー 私は、市民窓口課に所属しているが、窓口の印象では、東山区は他の区と比べて、お年寄りが多く、のんびりしているように思う。お年寄りが多いまちなのに、道が狭かったり、階段など段差が多いので、交通環境を改善したいと思う。

メンバー 東山区では、外国人の方を見かけることが多く、国際的な印象がある。

また、老朽化した建物が多く、耐震性に不安を感じ、危険だと思うこともある。

メンバー 私は、高齢者が住みやすい地域を作りたいと思っている。東山区は、東山のふもとにあり地形的に住みにくい地域なので、それを、人同士の助け合いでカバーしていきたい。

メンバー 私は採用2年目だが、仕事に就くまでは、東山区は観光のまちという印象があった。しかし、仕事をするようになって、化粧をしていない舞妓さんが稽古に行く姿を見かけたりして、観光のまちの裏側を知ることができた。業務では生活保護に携わっているが、華やかな通りを一本外れると、生活保護受給者が生活していたりする。区のいろんな面を見て、全体的にどのようにしていったらよいのか考えたい。

メンバー 東山区は、坂や石段が多く、京都らしい情緒のあるまちではあるが、そのことがかえって、住民にとって住みづらいまちになっているのではないかと思う。

メンバー データを見ると、東山区は女性の人口が多い。これは、注目しても良いポイントだと思う。東山区役所は京都女子大学・京都女子大学短期大学部と協定も締結しているので、連携を図り、まちづくりの力として生かしていきたい。

また、東大路通りは、歩道から歩行者が溢れている。自転車が通るスペースもなく、危険な状態になっているため、対応の必要性を感じている。

メンバー 東山区は、高齢者が多く、若い世代が少ない。次世代の担い手が少ないことに不安を感じるので、若い人を集めたい。そのために行政ができることはないかと考えている。

メンバー 東山区は、京都市を凝縮したまちだと思う。高齢化や建物の老朽化、細い道が多いことなど…。

メンバー メンバーの声を聞くと、東山区の印象は、高齢化や観光のまちという意見が多い。私は、エリアは狭いが、多くの観光客を集める東山区は京都のバチカン（市国）だと思っている。市長はどのような印象をお持ちか。

市長 逆に、山科区はどのような印象か。若い世代も多く住んでいて、文化財や観光スポットもある。東山区の隣に位置しているのに、観光客があまり来ないという悩みを持っている。

東山区は、観光スポットや伝統産業、大学など連携がとれているという強みがある。交通の問題など、一足先に社会実験を行っている。いろんな可能性を秘めており、今後ますます楽しみなまちではないかと思う。

東山区の学校の統合についても、「学校」を守るのか、「子供の教育環境」を守るのか、住民の方々が考えられ、決断された。役所は情報を提供し、検討する場づくりをした。ボトムアップで考えていただいた。あくまで住民が主人公であり、あなたたちはシナリオを作る、演出役の立場なのである。

東山区には、地域力がある。坂や階段が多いなどのハード面の問題も、ソフト面でカバーするのも大切。日本で一番住みたいまち、訪れたいまちにしてほしい。

メンバー 学校の統合については、住民が、守りの姿勢ではなく、積極的に動いてくれた。円卓会議も全学区にあり、市長のおっしゃるとおり、地域力はあると感じている。

区の特徴を生かした基本計画を作っていきたい。なかでも20代の女性が多いというデータは面白いと思う。これを活用するために、京都女子大学と連携し、計画に反映できれば良い。

メンバー 先日、ある学区の円卓会議に参加した際に、住民の方から「小中一貫校の新設に併せて近くに幼稚園も併設されると、もっと若い子育て世代の方が東山に住んでくれるのではないか」という意見をうかがった。私も公立の幼稚園小中一貫校というのは子育て世代を東山に呼び寄せる大きな地域ブランドになるのではないかと考えるが、市長のお考えはどうか？

市長 市民目線はとても大事。ただし、自分のところの「強み」に着目しないで、「弱点」ばかり強調し、行政依存の意見も多い。「強み」に気づいてもらう必要がある。もっと、東山区のもっている財産、特徴を生かして、地域を魅力的なものにしていくことが大切である。それを「共汗」で。共に高まる関係をつくらなければならない。

たとえば、京都女子大学の学生と先生が家づくりに取り組んでいることは、とてもうれしく思う。新しいアイデア、手法が求められている。

住民に一番近い区役所の皆さんが、それぞれの業務を離れて議論し、地域と共に、本庁を動かして行ってほしい。

メンバー 区内には清水焼の店が多くあり、私自身も清水焼の陶器がほしいと思うのだが、買い方が分からない。そういう人は多いと思う。最初の一步として、消費者に買ってもらうためのアイデアが必要だと思う。

市長 区役所で月に1度、清水焼の陶器市を開いたり、区内のホテルで清水焼の食器を使ってもらうなど、コラボレーションを企画しても良いかもしれないね。

伝統には、守るべきものと変えていくべきものがあり、外からの刺激を受け、必要な変化を加えていかないと伝統は守れないのである。

産業観光局では、伝統産業をどのように発展させるか、議論している。京都の伝統産業は、製造には強いが、今、情報発信や販売方法に課題があり、観光客等に販売する仕組みが不十分と思う。それをどうしていくか、考える必要がある。

メンバー 製造者の心に火を付けることを考えたい。

メンバー 東山区には、外の人にとっては、入りにくい雰囲気がある。観光することはできるが、お茶屋さんなどは敷居が高く、興味があっても入りづらい印象がある。それをもっとオープンにしていっていいと思う。しかし、伝統を軽々しく思われたくないと思っている地元の人もあるかもしれず、

バランスが大切である。

先日、修学旅行生が、清水寺のことを「シミズテラ」と呼んでいた。しっかり理解されておらず、もったいない。来てもらったら、しっかり理解してもらえそうな環境作りが必要である。

市長 個人の旅行客が町屋に宿泊できたら良いかもしれない。

過去に、私も、新採のころ、一橋小学校を「ヒトツバシ」小学校と読んでしまい、恥かしい思いをしたこともある。(笑)

メンバー 東山区の寺社仏閣や伝統産業など、すばらしいものはすばらしい。でも、それらは想定内の範囲内のこともかもしれない。それだけではないという事を発信していけたら良いのだが…。新しいものを取り入れるきっかけ作りをしていきたい。

市長 京都の伝統産業には、印刷、織染、仏壇仏具、京焼、清水焼等がある。例えば、今、よく使われているタッチパネルは、印刷技術が発展したものである。このように伝統産業から発達して、今、世界に冠たる企業に発展するなど、役に立っているものが多くある。素人や若い人が見て、格式が高く、敷居が高いと感じるものを突破していく必要がある。いろいろ挑戦してほしい。それが創造につながる。

メンバー 地域の声等、現場を感じての意見はないか？

メンバー 病院がお年寄りのサロン化している。やることがないと、体も弱ってしまうのではないかと思う。生涯教育を充実させるなどして、退職後も楽しめるまちにしたい。

メンバー 廃校となった学校の体育館などを活用して何かできないだろうか。

メンバー あるお年寄りの住民から、区役所に総合窓口を作ってほしいと言われた。役所からいろいろな手紙が届くが、何をどこに聞いたらよいのか、分からないとのことである。

市長 こちらからは丁寧に説明していく必要はあるが、住民の方にもきっちり手紙を読んでもらうことが大切である。改善が必要な点は改善しなければいけないが、こちらが全て手取り足取り教えるのも必要な時もあるが、可能な限りできることは自分でやっていただく自立した住民になっていただくことが、これからの地域主権時代において必要と思う。

お年寄りの楽しみとは何だと思う？それは、世のため、人のためになることではないだろうか。社会に自分の存在が認知され、理解されることだと思う。ボランティアの方が登下校時などに子どもの安全を見守る「安全見守り隊」を、自分のためにしている人はいないと思う。また、子どもに

ゲートボールを教えるお年寄りの姿等は生き生きしている。東山区は、知恵、人材の宝庫である。お年寄りに活躍していただける仕掛け、きっかけづくりが必要である。

メンバー 住民の方たちにモチベーションを感じてもらえる仕掛けを作っていければと思う。

メンバー 役所からの手紙を住民にきっちり読んでいただく必要があるという話は、なるほどと思った。今までは、住民の方からそのような声を聞くと、謝ることしかできていなかった。ただ謝るだけではなく、先方に動いていただくような対応を心掛けていきたい。

市長 確かに、役所の文書には分かりにくいものもある。それに対しては、文書を作成している本庁に言ってほしい。第一線の現場の声は大切であり、改善していく必要がある。

メンバー ボランティアの方に、区役所のフロアサービス員になってもらうことも良いと思う。

メンバー 現在、市役所本庁舎でエココンビニが開店しているが、市長はこれをどのように考えておられるか。

市長 最後に、エココンビニについて述べようと思っていたところだ。これは、障害のある方の就労の場にもつなげていける。ペットボトル等はごみになるし、回収にも再利用にも費用がかかる。人と環境にやさしい文化の発信と、コンビニ業界への投げかけの意味もある。今回は（株）ローソンやコカ・コーラウエスト（株）に御協力いただき、実施することができた。時代的に求められている取組であり、この社会実験が成功したら、区で取り組むのも良いかもしれない。本当は、市民にとって一番身近な区役所で実施する方が良いのかもしれない。

日々の業務も大切だが、業務を越えたこのようなプロジェクトチームによる取組は、人脈を広げるきっかけになる。つながりは財産となる。大胆に、能動的に動いてほしい。「木を見て森を見ず」という言葉があるように、全体を見通して判断することが大切である。ぜひ、地域主権の時代に、モデルとなるような区役所を作っていってほしい。

以上